

◎お薬の副作用と相互作用



副作用とは

お薬を飲んだときに、本来、目的としていない作用が現れることがあります、これを「副作用」といいます。例えば、“風邪薬を飲んだら眠くなった”という場合には眠気が副作用となりますが、“ぐっすり眠れる”という人であれば、副作用は特に問題にはなりません。すなわち「副作用」がいつでも悪者とは限らないわけです。

とくに副作用に注意しなければならない場合

- 特異体質（アレルギーなど）のある場合
- 過去にひどい副作用を経験している場合
- 肝臓などお薬を代謝する臓器に疾患のある場合
- ほかにもお薬を飲んでいる人
(医師・歯科医師や薬剤師におたずねください)



相互作用とは

2種類以上のお薬を服用したときに、個々のお薬では見られない作用が現れたり、それぞれのお薬の効き目が強くなったり弱くなったりするなどの変化が起こった場合、これらのお薬のあいだには「相互作用」があるといえます。また食べ物や飲み物によっても、お薬の効き目が変化することがあります。

詳しくは、医師・歯科医師・薬剤師にお尋ね下さい。



* PTPシート



錠剤やカプセル剤などのお薬を保護するためのプラスチック・シートのこと。
お薬を飲む際は必ずシートから出して飲んで下さい。

かかりつけ医・歯科医・薬局(薬剤師)をもちましょう

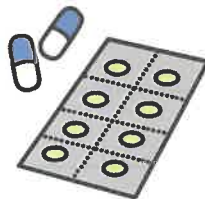
- * 健康について困ったことを、気軽に相談できるように、ご近所のかかりつけの「お医者さん」「歯医者さん」「薬局（薬剤師さん）」を持ちましょう。

持って安心、お薬手帳

- * お薬手帳は、服用中の薬の情報を医師・歯科医師に正確に伝えることができ、また、災害時にも、持ち運びがしやすいため、あなたの強い味方となります。
- * ひとり一冊お薬手帳を持ち、医療機関を受診するときは持参しましょう。



ジェネリック医薬品(後発医薬品)を利用しましょう



八尾市では、みなさんのお薬代の負担軽減や健康保険財政の改善につながり、今後、医療費や保険料率の伸びが抑えられることから「ジェネリック医薬品(後発医薬品)」の普及を推進しています。

○ジェネリック医薬品に変更するときの注意点

- * 自分の意思を伝える
医師や薬剤師に希望カードを提示するなどして意思を伝えましょう。
- * 医師や薬剤師の説明をきちんと聞く
複数のジェネリック医薬品がある場合などは、それぞれの特徴の説明をきちんと聞いて選択しましょう。
- * 変更できない薬や額が変わらない薬もある
すべての新薬にジェネリック医薬品があるわけではありません。医師の判断で変更不可になることもあります。また、薬を変更しても額が安くない場合があります。